



子供達との農業体験等を通じた活動の展開

あわたがわ

栗田川流域農地・水・環境を守る会（広島県庄原市）

しょうばらし

- 本地域では、平成19年から活動組織を立ち上げ、アイガモ農法による稲作体験、広島市や大阪府の子どもたちも交えた田植え交流会や収穫祭、小学校低学年・保育園を対象としたサツマイモの苗植え・芋掘り体験等、子どもを巻き込んだ様々な取組を実施している。
- 今後も本取組を通じて、地域の伝統的な農業を伝承していくとともに、地域コミュニティの活性化を図っていくこととしている。

【地区概要】

- ・取組面積 126ha（田126ha）
- ・資源量 開水路20.6km、農道6.0km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、PTA、その他7団体
- ・交付金 約8百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

取組の経緯

- ・アイガモ農法に取り組む藤本農園は、小学校での農業体験や学校給食へのアイガモ米等の提供等の取組を実施。
- ・地域の環境を集落全体で守っていききたいとの思いから、平成19年に栗田川流域農地・水・環境を守る会を設立。



水路泥上げの様子

子どもが参画する地域活動

地域の伝統農業・アイガモ農法体験



地域の子ども会や老人会に加え、広島市や大阪府の子どもたちも参加し、約400人規模のアイガモ農法による田植え交流会を開催。地元のお年寄りが太鼓をたたき、田植え歌を歌う中、子どもたちが、手植えやアイガモの放鳥を行った。



収穫祭では、稲刈り、はぜ干し等の体験を実施。収穫した米の一部は、子どもたちが自ら支援先を探し、東日本大震災の被災地へ送っている。



地域住民を招いた学習発表会を開催。アイガモ農法を題材として、子どもたちが演劇を実施。（平成24年11月）



遊休農地を活用し、地元小学校1～2年生と保育園児を対象に、サツマイモの苗植え・芋掘り体験を実施。



これらの体験を通して子ども達が自発的にアイガモの世話を始める。（アイガモの小屋は学校のすぐ隣）

活動の効果

- ・子どもが農作業に参加することに反対する親もいたが、この取組が地元テレビで放送されたことをきっかけに、徐々に理解が得られるようになった。
- ・田植え交流会や収穫祭への参加者が増えている。
- ・今後も、本取組を通じて、伝統芸能を伝承するとともに、地域コミュニティの維持・発展を図っていきたい。